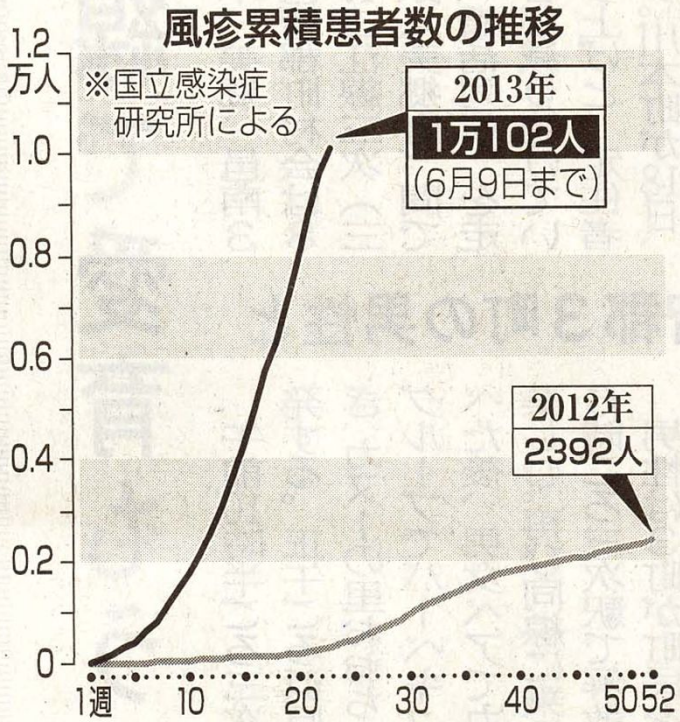
市民病院の中司善章事務部長は「後任のめどは立っていないが、市民生活を守るため、早急に医師確保に努める」と話している。休診になれば、小児科医師の退職に伴って生じた昨年3月末からの2カ月間以来となる。

風疹患者1万人超す

08年以降最多 流行広域化の恐れ

今年の全国の風疹患者数が累計で1万人を超え、1万102人となったことが18日、国立感染症研究所のまとめで分かった。9日までに全国から報告された患者数を集計した。全ての患者が報告対象となった2008年以降では最も多く、患者が激増した昨年1年間の2392人を大きく上回った。昨年の同期比では約30倍。

3～9日の週に新たに確認された患者は速報値で517人。都道府県別では大阪（129人）が東京(82人)を上回り、鹿児島(34人)や宮城（8人）などは前週よりも新規患者が大幅に増えており、流行が首都圏中心から関西周辺など広域化している恐れもある。

風疹は妊娠初期の女性が感染すると胎児が難聴や白内障、心臓病などの「先天性風疹症候群」になる恐れがある。感染研によると、風疹患者が増えた昨年後半以降、同症候群の報告は計11人となった。

患者は4分の3が男性で、ワクチン接種の機会がなかったとみられる20～40代が中心。一部の自治体では、妊娠を希望する女性や妊婦の夫らに予防接種の費用の助成を始めている。風疹を予防接種法で国などが費用を負担する「臨時接種」の対象にするように求める声もある。